

■発行/都会メディカルケアシステム 渡辺 康介  
 ■編集/福利厚生・広報委員会 京都市北区大宮南田尻町59番地  
 ■ホームページ/https://www.miyakokai-kyoto.com/  
 ■お問い合わせ/ info@miyakokai.or.jp

理念 ■患者様・ご利用者様の立場にたったケア(医療)・ケア(介護)を提供いたします  
 ■医療・介護・福祉を通して地域、社会に貢献いたします  
 ■職員の質の向上をはかります



今月のご長寿様

仲良しご姉妹

(左) 丸岡いさ様  
 大正15年1月11日 96歳  
 (右) 山本正江様  
 昭和6年1月13日 91歳



医療法人 社団 都会 理事長 渡辺 康介

新年あけましておめでとうございます。  
 二〇二三年 元旦

「かかりつけ医制度」について

今から遡ること37年前の1985年6月、厚生省が「家庭医に関する懇談会」を設け、1987年4月には最終報告書を出しています。その報告書の中には「家庭医機能10項目」が示されており、家庭医は家庭など生活背景を把握し患者に全人的に対応すること、いつでも連絡が取れること、地域住民との信頼関係を重視することなど、当時としては画期的な法案でありましたが、残念ながら廃案となりました。その対策としてできたのが「国民一人一人がかかりつけ医を持ちましょう」という曖昧模範とした制度でした。しかし、このコロナ禍でこの制度が明らかにおかしい事が露呈されました。ワクチン接種が始まった2021年初春から日医は「ワクチン接種は住民が通いなれた地域のかかりつけ医で」と主張し、それが通り自治体が地元医師会を通じて診療所での接種をスタートさせました。しかし、トラブルが多発しました。「かかりつけ医のはずなのに接種できないと言われた」また時々受診する地域の診療所から「定期的に受診しないのはかかりつけ患者ではない」と断られたりしました。また発熱患者がコロナの診療を受けようとかかりつけ医だと思っている医師に連絡を取ると門前払いされた、という話も患者さんや家族、ケアマネさん達から聞きました。

つまりコロナ禍で責任をもって住民を診察する医師が明確でないことが明らかになりました。「受診の自由」「フリーアクセス」を否定され、診察を受けられない患者が続出し、私どもの診療所にもたくさんの相談がありました。

私は、今医療制度の根底が揺らいでいることに危機感を感じています。そこでさすがにこれではまずい、と思われたのか政府は日本の「かかりつけ医制度」をやっと昨年の政策課題に取り上げました。

次ページへ

## 都の風 川柳

佳作

年老いてコロナコロナでマスクする

丸岡

佳作

ケアの日は 亡夫の写真 共に行く

西賀茂 ケア内 匿名

優秀賞

寝た身でも 話す内容は 科学者だ

田代 眞一(明美)

優秀賞

コロナ禍に 打つ手有ります 二の腕よ

つる 迪子

【宛先】  
 〒六〇三三八三三  
 京都市北区大宮南田尻町59  
 医療法人社団都会本部3階  
 「都の風」編集部宛て

※秋号の川柳に間違いがありました。  
 正しくは「祇園祭(さい) 勇壮鉾が 都路を」です。  
 大変失礼いたしました。

次点

青春に 祖母の古着の もんぺはく

佐々木 尚江

師走空 枯葉並木 涙風

山本 春雄

夕日透す 十一月の 蟬の殻

家辺 三枝子

クロスワード「答え」

1	ア	2	マ	3	サ	4	カ
5	ズ	6	ツ	7	キ	8	タ
9	キ	10	カ	11	リ	12	イ
	ガ		ウ		ベ		ナ
	ユ		ウ		ベ		カ

ハツアカリ(初明り)

Facebook QRコード

Instagram QRコード

ホームページ QRコード

2022年6月7日に閣議決定した「経済財政運営と改革の基本方針2022」がこれです。この中で「コロナ禍で顕在化した課題を踏まえ、かかりつけ医機能が発揮される制度整備を行う」と明記されました。開業医の在り方を問い直す大きな制度改革になる可能性があります。

実はコロナ蔓延以前から、緩和医療・ケアにおいても私は同様の危機感を感じておりました。特にがんの終末期です。「最期の大切な時間を住み慣れた家で過ごしたい」と希望され、病院側にも退院の準備を始めていただくのですが、多くの患者さんではできれば病院とも縁を切らず、その上で馴染みのかかりつけ医にもお世話になりたいと希望されます。しかし、問い合わせしてみると、今までの受診していた、また訪問していたかかりつけ医はがんの終末期は診れない、苦痛の緩和や医療のオピオイドを処方できないなど、馴染みの医師に看取ってもらえないという話は少なくありません。また、ありがたく引き受けて下さったのですが、痛みなど苦痛の緩和の方法がわからず、患者の苦痛の緩和ができていない、夜間や休日は苦痛があっても連絡がつかないなどの現状もあります。まだ、相談があればよいのですが、そのすべもわからず、そのような状態で終末期を過ごされている方もいらっしゃると思います。これもやはりかかりつけ医の課題だと強く思います。

私どもの法人では当然ながら当初から「おせっかい」という理念のもと24時間365日、患者さんやご家族を支える医療や介護を提供してきました。（詳しくは『おせっかい日誌』を参照）

今コロナ禍や緩和医療において機能しないかかりつけ医という現実を突きつけられ、国民の期待する開業医と現実の開業医との乖離に気づかれた人は多いと思います。そもそも医師たるもの、その根底には「ノブレス・オブリージュ」という精神を持つべき職種と考えます。社会的災禍が起こった時には損得抜きに行動すべきという、社会に役立つ、ある意味おせっかいな精神が必要だと思えます。もちろん法的整備も必要ですが、制度の前に医師としての奉仕の精神は忘れてはならないと考えます。



# 「おせっかい」



渡辺西賀茂診療所 副所長 小原 章央

本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。さて、私が都会の在宅医療と出会い、もうすぐ13年になります（非常勤を含む）。訪問診療で皆さまのお宅にお邪魔させて頂いておりますが、私はこの仕事の中で、患者さんのお宅にお邪魔して過ごす時間が、一番充実した気持ちになり、楽しく、そして幸せに感じます。患者さんから元気をもらうこともたくさんあります。

そんな私にとつての訪問診療ですが、患者さんのお宅にお邪魔し、お話をしたり診療をするのももちろん医師と同行する看護師ですが、この訪問診療では見えないところで、多くの仲間が支えてくれています。例えば、毎月の訪問スケジュールを組んでくれるスタッフ、訪問に出発する前、訪問予定時間の電話連絡や訪問の時に必要な医療機器、薬剤を準備してくれるスタッフ、予定時間通りに訪問できるように運転でサポートしてくれるプロドライバーの皆さん、移動中に他のスタッフへ必要な連絡事項を伝えてくれる同行看護師の皆さん、臨時の往診の時にスケジュールや必要な薬剤など準備し時間を調整し一緒に訪問してくれる訪問看護師の皆さん、新たにご紹介頂いた患者さんの情報を整理して訪問日程の調整や主治医へ情報を速やかに伝えてくれるスタッフ、医師の行った膨大な医療内容を毎月、患者さんと診療報酬として計算してくれる事務スタッフの皆さん。そして、医師の作成する様々な文書の記載を補助してくれるスタッフ。

こうした訪問診療の現場では直接見えない、スタッフの皆さん1人ひとりの責任ある仕事の支えの上に、私たち医師の日々の訪問診療は成り立っているのです。そして、こうして支えてくれる仲間のおかげで、私はこうして、患者さんのお宅にお邪魔した時、充実した気持ちになれるのだと思います。いつも感謝しています。

手前味噌ではありますが、こんな素晴らしい仲間を支えられながら、仲間と、そして患者さんに感謝し、今日も訪問診療でお邪魔します。



## 西賀茂 デイサービスセンター

## デイサービスセンター つるさんかめさん

### デイサービスの運動会

宣誓! 私たちは一生懸命こけないよう頑張ります!

借り物競争! 田中さんと森脇さん

赤組に負けないぞ

赤勝て! 白勝て! 玉入れが一番盛り上がります!

表彰状 西賀茂栄誉賞を頂きました。ありがたいわ~

## 「クロスワード」

出題 小田 正

「問題」 A~Eをつなぐと答えです

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12

### 「たてのカギ」

- 1 小正月に食べる
- 2 ○○飾り。門○○
- 3 都会と農村の中間
- 4 春が霞なら秋は…
- 5 茶と飯。日常○○○事
- 6 雌牛。○○ボーイ

### 「よこのカギ」

- 1 女性の備
- 2 登りはしんどい
- 3 プロレスの頭の技
- 4 災難に遭つこと
- 5 アトリエが仕事場
- 6 咲くと美しい
- 7 話術の巧みな人

